

内崎山と明恵上人

内崎山は、田殿橋の北側にある小丘陵で、山上には弘法大師を本尊とする法蔵寺が所在し、「大師山」とも呼ばれています。浄教寺（長田）に伝わる「浄教寺歴代人記」によると、清空和順（1820～1869）が、安政2（1855）年に旧長田村の花先勘右衛門から銀2貫で内崎山を購入したことが記されており、その後は浄教寺の奥の院として整備が行われてきました。

「紀伊国名所図会」によると、内崎山は崎山良貞の屋敷跡であり、明恵上人の旧跡とされています。崎山良貞とは、幼くして両親を亡くした明恵上人を引き取り、養父となった人物です。また、この地域が田殿荘と呼ばれる荘園であった鎌倉時代には、地頭（荘園の現地支配をする職）を務めた在地領主であり、紀州最大の武士集団であった湯浅党の有力な構成員でもありました。

崎山良貞は、明恵上人の紀州における修行を支援しており、明恵上人が自らの夢を書き継いだ「夢記」の中にも崎山良貞やその妻がしばしば登場するなど、その関係は実の父母に匹敵するほど深いものであったと考えられます。崎山良貞が亡くなった後には、妻が屋敷を修行の場所として明恵上人に与え、明恵上人は弟子たちと約2年間を過ごしています。明恵上人の没後には、弟子の喜海が卒塔婆を建て、崎山遺跡として顕彰しました。

文政2（1819）年には、花先勘右衛門が地区住民の寄進を得て四国八十八か所を勧請して霊場としました。また、大師信仰だけでなく、稲荷・金毘羅・地藏信仰など多様な信仰の場所でもあり、田殿地区における民間信仰の中心をなしていました。掲載の写真は、大正15（1926）年に待望の木橋が完成した際に作成された田殿橋開通の記念絵葉書です。有田川と遡上する舟、木の橋脚、内崎山と背後の山並など、かつての美しい景観が伺えます。明恵上人ゆかりの地という伝承に加え、その心を引く美しい風景から、内崎山は田殿地区の象徴的な場所であったと言えるでしょう。



（行世館蔵寫本絵） 《所名田有》 山師大村殿田

田殿橋完成記念絵葉書 大正15年（1926年）